

6月の園だより

令和4年5月31日

杉並区立西荻北子供園

園長 石床 美穂子

「一人ひとりの幼児が育つために ～西荻北子供園の特別支援教育～」

副園長 小森 三奈子

子供園は、子どもの多様性を尊重し、個々の違いを認め合い、ともに学び合う就学前教育施設を目指しています。子どもたちが安心できる環境の中で、幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ね、一人ひとりの発達に必要な体験が得られる場となるよう、日々の保育に特別支援教育の考え方を組み込み、保育者が環境と援助の工夫をしています。

特別支援教育の考えとは、全ての子どもたちにとって生活しやすい環境と援助を心掛け、一人ひとりが「分かってできる」「自分でできる」ことです。そして、主体的に生活や遊びに取り組めるようにし、安心感や自己肯定感を育むことを大事にしています。今回は、西荻北子供園での取り組みについてご紹介します。

<環境では ～すべての子どもに分かりやすく～ >

子供園では、どの幼児も見通しをもち、安心して遊びや生活を進めていくことができるよう、分かりやすい環境や援助を心掛けています。

例えば、遊びでは、子どもたちが使う遊具の場所に写真やイラストの表示を付けています。何があるか見て分かりやすく、自分で選んで用意したり、片付けをしたりしやすいような環境にしています。

また、朝の支度や弁当の支度等の手順をイラストで表示しています。その表示があると、動き出しのきっかけとなり、自分で一つずつやることを確認しながらできるため、やるのが分かり安心して支度を進める姿につながっています。

<援助では ～一人ひとりの育ちに合わせて関わる～ >

一人ひとりの育ちに合わせて、遊びや生活を進めていくことを大事に援助しています。

自分で選ぶ遊びの時間には、保育者が幼児の思いを受け止め、一人ひとりの育ちや、やりたいことに応じた素材や用具を提案することで、幼児の思いが実現し、遊びが充実するようにしています。

思いを言葉で表すことが難しい幼児には、保育者が互いの思いを言葉で引き出したり、代弁したりしながら関わり方を知らせています。生活の切り替えの部分では、「～したかったね。」「明日しようね。」と気持ちに共感したり、次の活動や翌日の登園を楽しみにしたりできるような声掛けをしています。

<園内支援体制の充実>

子供園では、園内委員会を設置し、特別支援教育コーディネーターを中心とした検討会を定期的開催しています。そこでは、各クラスの幼児の実態把握および支援方法について検討を行っています。ここで、検討されたことは、担任だけでなく園内の職員間で共有し、どの職員も同じ関わり・支援ができるようにしています。

年4回の巡回相談では、外部専門家に園内環境や幼児の様子を見てもらい、環境および支援の方法について学び、評価・改善しています。また、幼児の実態、長期目標、中期目標、具体的な支援方法を書いた個別の指導計画を作成し、学期ごとに振り返り、指導に生かしています。進級した時には、成長の経過と必要な支援が分かるように、前担任から新担任が引き継ぎを行い、継続的・効果的な支援を行えるようにしています。

今年度は、副園長の小森が特別支援コーディネーターとなっております。お子様の育ちや関わり方等、気になることや相談したいこと等がありましたら、いつでもお気軽にお声がけください。

特別支援に関しては、今後も具体的にお知らせしていきます。

子どもたちの様子と今月のねらい

3歳児 うさぎ組

子供園にも慣れ、朝の身支度や弁当の支度等、自分でできることは自分でやってみようとする姿が増えてきました。その日の気分や体調によって、「すぐに遊びたいな」、「先生とやりたいな・・・」という思いを伝えるようにもなりました。一人ひとりの気持ちに寄り添いながら、一緒に身の回りのことをして、「できた！」が感じられるように援助しています。

戸外で過ごす姿も増え、水を使った遊びや泥遊びを通して、感触の違いを感じて繰り返し楽しんでいます。

今月から水遊びが始まります。一人ひとりのペースで水遊びを楽しみ、水の心地よさや開放感を楽しめるようにしていきます。

〈今月のねらい〉

- 好きな遊びを見つけて自分なりに楽しむ。
- 水・砂・泥の感触を楽しんだり、水の冷たさや心地よさを感じたりして遊ぶ。
- 保育者に見守られながら、身の回りのことを自分でしようとする。

〈家庭との連携〉

汗をかいたり、泥遊びや水遊びをしたりすることで、着替えをする回数が増えることが予想されます。こどもたちができた嬉しさを感じられるように、着脱のしやすい衣服の用意や補充をお願いします。

4歳児 くま組

気候も良く、戸外では、体を動かして遊ぶことが楽しくなっています。保育者や友達に追いかけてもらい逃げることや一緒に走ることを繰り返し楽しんでいます。また、5月の連休明けにまいた、オクラやインゲンの種が芽を出しました。「どんな野菜ができるのかな」「早く大きくなるといいね」と、生長に期待感をもって見たり水やりをしたりしています。

6月は、水遊びやプール遊びが始まります。水、砂、泥の心地よさや開放感を感じ、のびのびと遊ぶことを楽しめるようにしていきます。

〈今月のねらい〉

- 身近な素材や用具を使って作ったり、作った物を使って遊んだりする楽しさを感じる。
- 自分の思いを言葉や動きで表しながら、保育者や友達と遊ぶ。
- 砂、泥、水等に触れて感触を楽しんだり、開放感を味わったりする。

〈家庭との連携〉

6月は、保育参観・個人面談を予定しています。子供園での遊びや生活の様子等を見ていただき、成長を感じていただきたいと思います。また、保護者の方が気になったことについてもお話をし、お子さんとの接し方について考えていきたいと思います。

5歳児 そろ組

積木を使ったごっこ遊び（電車・船・おうち等）を、友達と一緒に取り組んでいます。その中で友達の思いを聞いたり、自分の思いを伝えたりしています。今月は、友達とやりとりをする中で自分たちなりのめあてを見つけ、それに向かって遊びを進める楽しさを感じられるよう援助をしていきたいと思います。また、気温も上がるため、水を使った遊びも楽しめるよう環境を設定していきます。

<今月のねらい>

- 自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりしながら、自分たちなりのめあてに向けて友達と一緒に遊びを進める楽しさを感じる。
- 「こうしていこう」という自分のめあてをもち、試したり工夫したりしながら遊ぶことを楽しむ。
- 梅雨期の自然や動植物の生長に興味や関心をもつ。

<家庭との連携>

先日は保育参観・懇談にご参加いただき、またアンケートにご協力いただきありがとうございました。懇談を少人数で行えたことでお子さんの様子を詳しくお話できたり、他のお子さんのご家庭の様子を聞くことができたりして良かった、という感想をいただいています。お子さんが園で楽しんでいる遊びを実際に見ていただいたことで、ご家庭でする「子供園の話」が少しでも深まったり充実したりすれば幸いです。ぜひ、お子さんと子供園の遊びや過ごし方について話してみてくださいね。

ほしグループ 長時間保育

うさぎ組は、長時間保育の友達やくま組のお兄さんお姉さんたちと関わることを楽しむようになってきています。くま組は、園庭で積み木などを使って場を構成してごっこ遊びをしたり、室内で自分のつくりたいものをつくったりして、遊ぶことを楽しんでいます。また、うさぎ組と一緒に園庭で走ったり、優しく遊び方を教えたりする姿も見られています。そろ組は鉄棒にチャレンジしたり、友達と一緒にブロックや動物の人形を使って動物ランドを作ったりして、自分たちのやりたいことを楽しんでいます。

5月25日（水）子供園職員が荻窪消防署の方から救急法の指導（AEDの訓練）を受けました。

その際に、「#7119」についても教えていただきました。救急車を呼んだ方がよいか迷ったときに、右記の番号に電話をすると、東京消防庁救急相談センターで相談できます。

病院？ 救急車？ 迷ったら…

#7119